



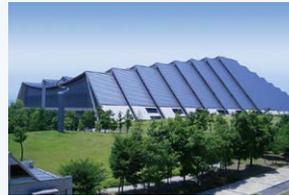
小島 良太
(スピードスケート選手)

＜プロフィール＞

小島 良太(こじまりょうた)

1998年、長野県長野市生まれ。3歳でスケートを始め、エムウェーブスケートクラブで本格的にスピードスケートを始める。信州大学卒業後、株式会社エムウェーブに所属。2022年、北京オリンピック男子スピードスケート1000mに日本代表で出場。

2022北京オリンピックに続き、2大会連続となる2026ミラノ・コルティナオリンピックを次なる基準に定める小島良太選手。長野オリンピックが開催された1998年に生まれた「エムウェーブの申し子」に話を聞いた。



長野市オリンピック記念アリーナ
(エムウェーブ)

長野県長野市大字北長池195

管理開始：1996年10月

管理内容：設備管理、清掃、
環境衛生管理業務

管 轄：関東支社 長野営業所

世界で一番好きな“ホーム”リンク

練習拠点にしているエムウェーブは、世界のトップ選手たちからも高い評価を受けているスピードスケートのリンクです。信州の山並みを表現した M 字型の高い天井が美しく、これだけ開放感のあるリンクは世界中を見渡しても他にありません。また、製氷技術も素晴らしいです。氷の状態は常に最高レベルが維持され、選手たちのタイムが出やすいよう、繊細に、そして丁寧な作り込まれています。国内外のトップスケーターが集い、重要な試合が繰り広げられるこのリンクは、まさにスケートの聖地とも呼べる存在です。

そんな一流のリンクに 3 歳から当たり前のように立っていたなんて、思えば贅沢な環境です。子どもの頃、いろいろなスポーツに挑戦していましたが、このリンクに立つ世界の強豪たちの姿にふれ、スピードスケートに熱中していったのは自然な流れだったのかもしれません。

エムウェーブでの初の大舞台は、2019 年に行われたワールドカップでした。家族や大学の友達も応援に来てくれて、緊張感

とワクワク感のなか、世界デビュー戦にして 6 位という好成績を残すことができました。北京オリンピック出場をかけた 2021 年の日本代表選考会も会場はここ。1000m では 1 分 8 秒 35 のリンクレコード*で優勝することができました。オリンピック出場を決めただけでなく、第二の家と言えるほど長い時間を過ごしてきたリンクで、世界の歴代名スケート選手たちを超えることができたことが、何より誇らしかったです。

来年はミラノ・コルティナオリンピックです。まずは日本代表入りを果たし、成果としてメダルを持って帰りたいですね。そして、この長野オリンピックレガシーであるエムウェーブから、次の世代へスケート文化のバトンをつなぐことも私の使命だと思っています。この特別なリンクでの数々の経験を胸に、未来に向けて滑り続けます。



エムウェーブで行われた第31回全日本スピードスケート距離別選手権大会
(2024/25シーズン)

*そのスケートリンクで開催された大会で樹立された国内外全選手の記録のうち最も速い記録。2024/25シーズンから呼び名が「トラックレコード」へと変更された